

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で
(旧 名古屋第二赤十字病院)で
診療を受けられた／受けられる患者さんへ
～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	急性期病院における骨粗鬆症治療薬の継続率の検討		
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2024年12月31日		
研究実施診療科	整形外科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2022年11月17日	
	院長が研究実施を許可した日	2022年11月18日	
対象となる方	(西暦)2020年1月1日～(西暦)2024年12月31日に、当院 整形外科において、骨粗鬆症治療(イベニティ®・プラリア®・フォルテオ®・テリパラチド®・テリボンオートインジェクター®)を受けた方		
研究責任者	所属	整形外科	氏名 小林 和克
研究の意義・目的	高齢社会を迎え、かねてより骨折予防が必要とされています。骨粗鬆症治療の重要性が認知され、近年には、骨吸収抑制剤のほか骨形成促進剤も複数使用可能となっています。従来薬に加え、自己注射製剤も使用可能となりましたが、十分な治療効果を得るためには、いずれも高い継続率が必要となります。一方で治療継続性の問題も指摘され、投与を中止した場合には、骨量の急激な減少や骨折のリスク上昇も懸念されています。高度急性期病院である当院では、患者の通院状況に合わせ、必要時に病診連携を通じて近隣医療機関への紹介もおこなっていますが、これまでに急性期病院における各種骨粗鬆症治療薬の継続率やその実態について十分検討されていません。当院における外来診療において骨粗鬆症治療薬の継続率を算出し、継続可能・中止に至った詳細を検討することを目的とします。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、統計学的に検討します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。(年齢、体重、性別等の基本情報、イベニティ®・プラリア®・フォルテオ®・テリパラチド®・テリボンオートインジェクター®治療の継続期間、中断理由等)		

結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報等は、将来、本研究に関連する別の研究のために利用させていただく可能性があります。その場合には、その計画について別途倫理審査を受け、承認を得た上で使用します。二次利用を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 整形外科 井村 早織 電話 052-832-1121 (代表)